

02 東本町小学校

地域とともにある学校づくり

小中一貫教育の実践（教育活動の方向性）

中学校区の目指す子ども像	差別を許さず自他を大切に行動ができる生徒
我が校の目指す子ども像	豊かな知恵とやさしさをもち たくましく生きる子ども 幸せをつなぐ、ひろげる～あなたがいて わたしがいる～



実現に向けた重点的な取組内容	小中一貫教育の具体的な取組	
	我が校の取組	中学校区の取組
	・学びの連続性を意識した「3期3類ひがし同和学習プラン」に基づく授業実践 ・各教科、外国語活動、特別の教科道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の授業における子どもの表現する力の育成と同和学習との関連性 ・自他の人権を尊重しながら互いのよさを認め合う授業づくり	・人権集中学習期間における小中での授業研究を実施。 ・校長連絡会にて、各校の全国学力、学習状況調査の分析結果を共有。 ・中学1年生の運営による小学校6年生との交流会を実施。 ・見学、体験を目的とした、城北祭への学区小学生の招待。
	成果○と課題■	成果○と課題■
	○夢・志チャレンジスクール事業を活用し、夢・志をもって活動する地域の「人」との出会い、体験活動を意図的、継続的に設定し、当事者意識をもつことができた。 ■児童が話し合いによって問題を解決し、差別解消のための行動意欲と実践的態度を一層はぐくむための指導と評価のあり方を検討する必要がある。	○活動内容のスリム化、精選を行った。 ○文化祭を通して、生徒の主体的な活動を支援することができた。 ○文化祭を通じ、地域住民、小中の交流が実現した。 ■校区内の部会が開催できなかったため、中学校区としての共通の取組について具体的な方策を協議することができなかった。

〈夢・志チャレンジスクール事業の取組（地域とともにある学校づくり実践）〉

取組の概要	主な活動内容	
「差別を自分の問題としてとらえ、自分と向き合う子」をはぐくむために、「ひがし同和学習プラン」を着実に実践し、同和教育の充実・深化を図った。 夢・志をもって活動する人との出会い、交流を意図的に設定し、児童が、差別される人、弱い立場にある人のつらい思いや心の痛みに共感し、憤りをもつとともに、差別解消を目指して今の自分とこれからの自分のあり方を考えるようになった。	生活科	植物や動物など命あるものとそれに携わる人との出会い、交流
	総合	高齢者や地域住民との出会い、交流（3年）
	総合	部落差別やそれに立ち向かっている人々との出会い、交流（6年）
学校運営協議会の評価 ・同和学習では、差別された人の心情に思いを巡らせ、互いの考えを認め合い、自分の思いや考えを見直す児童の姿が見られた。 ・授業において、ペアやグループ等による話し合い活動を多く取り入れ、主体的・対話的で深い学びを推進している。		夢・志チャレンジスクール事業の取組は、目指す子ども像の実現に有効であった
	○	当てはまる
		どちらかというと当てはまる
		どちらかというと当てはまらない
		当てはまらない

スクーリングマネジメント実践報告書

学校運営協議会の活動内容

学校運営協議会の委員の構成									
教職員	1 人	保護者	2 人	住 民	4 人	その他	2 人	合計	9 人
学校運営協議会の回数 ※（ ）は、回数内における紙面協議回数	学校単独	1 学期	1 回 (0)	2 学期	0 回 (0)	3 学期	1 回 (0)	合計 2 回 (0)	
	中学校区合同 ※中学校区で同数にする	1 学期	0 回 (0)	2 学期	0 回 (0)	3 学期	0 回 (0)	合計 0 回 (0)	

活動の内容	成果○と課題■
・第1回は、学校づくりの合い言葉「幸せをつくる～あなたがいて わたしがいる～」の学校経営方針を中核にして、子どもの心の振り子が揺れて自他の「幸せ」のために動き出す姿、対話的な活動、思考と表現が往復する学び合いの場、防災教育、働き方改革の取組などテーマについて、全教職員と熟議を行った。 ・第2回の会では、学校評価で析出した課題について、熟議を行った。 ・授業参観の児童の姿から、学校運営の成果と課題を共有するとともに、今年度の学校運営の総括的評価を検討し、次年度の取組の方向を明らかにした。	○児童支援、個別支援について、上越教育大学との連携強化を図り、学生ボランティア複数名による支援体制が整い、児童にとって大変有効であった。 ○学校経営方針「幸せをつくる」の学校づくりの合い言葉を踏まえ、委員から、地域に生きる児童の心温まる言動やエピソードが寄せられたり、地域の一員として応援したいという声が届いたりした。 ■学校課題の一つであるメディアコントロールについて、委員と検討を始めた。 ■対話的な活動により、思考と表現が往復する学び合いの授業改善を積極的に進める。

総 括
子どもが紡ぐ様々なエピソードに触れるにつれ、子どもが内にもつ自分なりの矩や礼節さがかもす静かな強さに気付かされた。子どもの優しい心には、学校や地域、社会に、元気と希望を与える力強いエネルギーがあることを感じている。今年度、「幸せをつくる」を学校づくりの合い言葉に、様々な教育活動を展開してきた。人権教育、同和教育を基盤にした当校の教育課程が、自分とまわりの人々の「幸せ」をつくり、豊かな生き方へ歩む子どもを育てていることを実感している。

〈活動写真〉

 ○1年生は、羊と遊んだり世話をしたりする活動の中で、動物への思いを膨らませていき、生命について関心を高めた。	 ○3年生は、高齢者の方と交流を通して、思いやる気持ちやいたわる気持ちとともに、相手への感謝や尊敬の気持ちをもってかかわる大切さを学んだ。	 ○6年生は、西光万吉の半生から、水平社設立までの苦悩や行動、勇気について考えを深め、部落差別解消に向けて自分にできることを考えた。
---	--	--